

「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修」標準カリキュラム

| 科目 | 内容・目的 | 時間 |
|--|--|--------|
| 1 障害福祉の動向に関する講義(1時間) | | |
| 障害者福祉施策の最新の動向(講義) | ・障害者福祉施策、児童福祉施策の最新の動向について理解することにより、利用者の置かれている制度的環境の変化を認識する。 | 60分 |
| 2 サービス提供に関する講義及び演習(6.5時間) | | |
| モニタリングの方法(講義・演習) | ・事業所のモニタリングについて、サービス等利用計画、障害児支援利用計画との連動性を念頭に置きながら、モニタリングの視点・目的・手法等について講義により理解する。事例を通じて、モニタリングの演習を行い、その手法を獲得する。 | 120分 |
| 個別支援会議の運営方法(講義・演習) | ・個別支援会議の意義、進行方法、会議において行うべき事項(個別支援計画作成時、モニタリング時)等について講義により理解する。 ・個別支援会議における合意形成過程について、模擬個別支援会議の実施体験演習を通じて、サービス管理責任者等としての説明能力を獲得する。 ・模擬個別支援会議の体験をもとに、個別支援会議におけるサービス管理責任者等の役割についてグループワーク等により討議し、まとめる。 | 270分 |
| 3 人材育成の手法に関する講義及び演習(3.5時間) | | |
| サービス提供職員への助言・指導について(講義・演習) | ・サービス提供職員等への支援内容・権利擁護・法令順守等に関する確認や助言・指導を適切に実施するための方法等について講義により理解する。 ・講義を踏まえて、受講者が事業所において実施している助言・指導業務について、グループワーク等により振り返るとともに、今後の取り組み方について討議する。 | 90分 |
| 実地教育としての事例検討会の進め方(講義・演習) | ・事例検討会の目的・方法、効果等について講義により理解する。また、事例検討会の実施がチームアプローチの強化や人材育成にも効果を有することを理解する。 ・受講者が持ち寄った実践事例をもとに、事例検討会を行うことで、事例検討会の進め方を習得する。 | 120分 |
| 4 多職種及び地域連携に関する講義及び演習(3.5時間) | | |
| サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割(多職種連携や地域連携の実践的事例からサービス担当者会議のポイントの整理)(講義) | ・多職種連携や地域連携の実勢事例を活用し、サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割(相談支援専門員との連携や関係機関との連携方法)について理解する。 | 50分 |
| (自立支援)協議会を活用した地域課題の解決に向けた取組(講義) | ・(自立支援)協議会の意義、目的、活動内容等について理解する。 ・サービス管理責任者等の業務を通じて見出される地域課題を解決するための(自立支援)協議会の活用について実践報告等により学ぶ。 | 50分 |
| サービス担当者会議と(自立支援)協議会の活用についてのまとめ(演習) | ・サービス担当者会議や(自立支援)協議会に関する講義を踏まえ、多職種連携や地域連携の重要性、意義、ポイントについてグループワーク等による討議を通じて、連携のあり方についてまとめを行う。 | 110分 |
| 合計 | | 14.5時間 |